

令和7年度

全国学力・学習状況調査結果

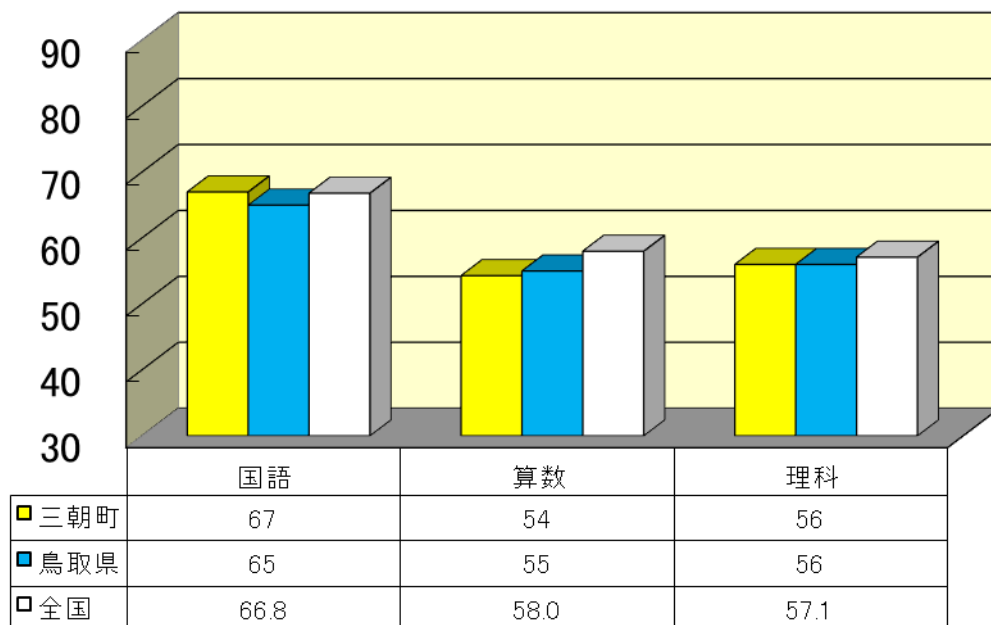
三朝町の概要

三朝町教育委員会

Ⅰ 三朝小学校6年生の結果について（児童数38名/41名）

（Ⅰ）教科調査 ※数字は平均正答率（％）。県・市町村は、小数点以下四捨五入し整数で公表。

令和7年度 全国学力・学習状況調査 小学校



【国語】

- ・ 全国の平均正答率と同等の結果となっている。
- ・ 知識・技能を評価する問題（4問）については、全国に比べて平均正答率が高い。
- ・ 思考・判断・表現を評価する問題については、全国と大きな差はない。
- ・ 思考力・判断力・表現力等の内容について、よくできていたのはA「話すこと・聞くこと」の内容で、インタビューをする場面での聞き手の発言が、相手から知りたいことの具体例を引き出そうとしたものであると捉えることができていた。半面、B「書くこと」の内容で、伝統工芸品を推薦する「ちらし」が、伝えたいことを内容のまとまりごとに分けて書いていると捉えることができていなかった。また、C「読むこと」の記述式問題が、全国の平均正答率と比べて6.3ポイント低かった。
- ・ 目的に応じて簡単に書いたり詳しく書いたり、図表を用いるなど書き表し方を工夫する力や、読む目的を明確にし、文章と図表などを結び付けるなど、必要な情報を見つける力の育成が必要。

【算数】

- ・ 全国の平均正答率と比較すると、全体で4ポイント低い結果である。
- ・ 全16問のうち、全国と5ポイント以上の開きがあるのは7問で、うち10ポイント以上の開きがある問題が3問あった。
- ・ 無回答率が0%の問題が12問あり、粘り強く取り組もうとした姿勢が見られる。
- ・ 知識・技能を評価する問題の平均正答率が低い傾向にあり、身につけた知識・技能を使って問題を解く、いわゆる活用する力の弱さにもつながっている。
- ・ 授業において1単位時間のタイムマネジメントをすることや、単元全体の見とおしをもちながら類似問題に取り組む時間を確保すること、理解したことを自分の言葉で説明（アウトプット）する機会を増やすなどの取組が必要。

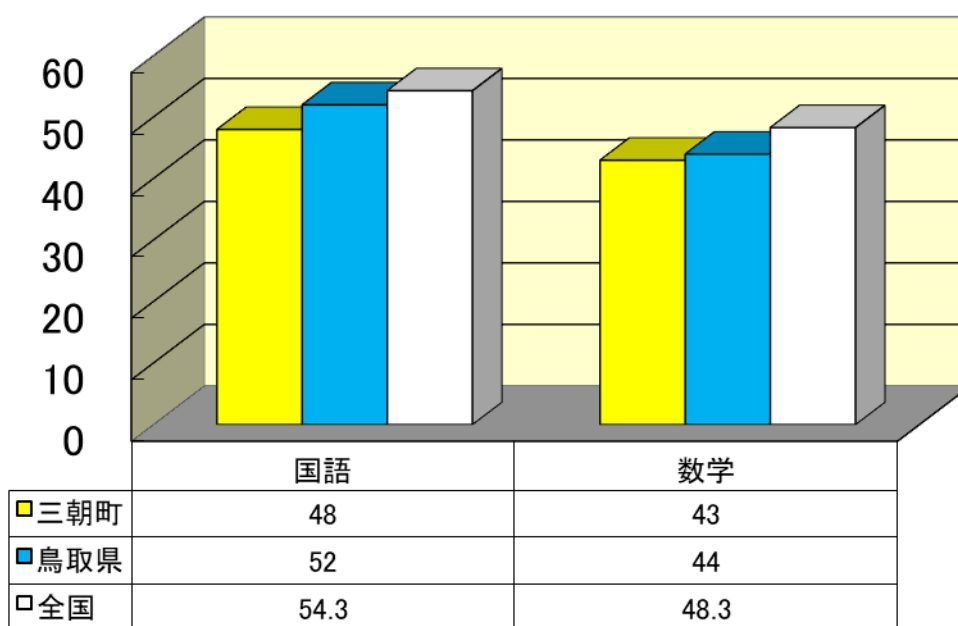
【理科】

- ・全国の平均正答率と比較すると大きな差はない。
- ・全体で見ると差はないが、複数の問題で全国の高正答率より 7 ポイントから 11 ポイント高いものもあれば、逆に 8 ポイント以上、また 15.6 ポイントも低い問題がある。
- ・実験結果を基に結論を導いた理由を表現すること、顕微鏡の操作技能、温度によって水の状態が変化するということの理解とその知識を基にした水の結露についての概念的な理解がよくできていた。
- ・観察、実験などに関する技能の習得に関係する 3 問のうち、2 問の高正答率は全国に比べて 8.5 ポイント低い結果となった。
- ・異なる領域を関連させて理解する学習展開の工夫や、自然現象に親しむ中で問いを見いだし、単に「体験する」だけでなく科学的な言葉や概念で考える力をつけていくことが大切である。

2 三朝中学校 3 年生の結果について（生徒数 32 名/47 名）

※インフルエンザ流行による

(1) 教科調査 ※数字は平均正答率(%)。県・市町村は、小数点以下四捨五入し整数で公表。



理科	平均 IRT スコア
三朝町	471
鳥取県	490
全国	503

【IRT (Item Response Theory: 項目反応理論とは)】

国際的な学力調査や英語資格・検定試験で採用されるテスト理論。IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表すものが IRT スコア（学校ごとの結果）個人の結果は 5 段階の IRT バンドで表示される。

【国語】

- ・全国の平均正答率と比較すると 6.3 ポイント低い結果となっている。
- ・無回答率については、記述式で高い傾向にあるが、全国よりは低い割合となっており、粘り強く取り組みうとしたことがうかがえる。

- ・文章全体と部分との関係に注意しながら登場人物の設定の仕方を適切に捉えることができていた。
- ・文中の語句の意味理解の正答率は全国より 10 ポイント高い結果である。
- ・思考力・判断力・表現力等の内容 A「話すこと・聞くこと」については、全国と比べて 14.1 ポイント低い結果となっている。言語活動を行う際には、意図している指導事項（つけたい力）を生徒自身も理解していることと、その力をつけるための指導と学習展開の工夫が必要である。
- ・質問調査「国語の授業内容はよく分かる」と肯定的に回答した生徒は 78.8%いるが、得点には結びついていない。生徒の「分かった」が、「つけたい力がついた」となり、以降の学習においても思考したり表現したりする際に使える力となるよう、授業改善が必要である。

【数学】

- ・全国の平均正答率と比較すると 5.3 ポイント低い結果となっている。
- ・知識・技能を評価する問題 9 問のうち、7 問は全国の前答率より低く、知識の定着に課題がある。一次関数の問題、確率の問題については、特に正答率が低かった。
- ・図形の証明の必要性和意味、及びその方法についての理解とグラフ座標の意味理解については全国に比べて正答率が高かった。
- ・生徒が目的意識をもって数学的に問題発見・解決する過程を遂行できるよう、単元でつけたい力や見通しをもたせ、自力解決の時間、他者参照する時間、先生が教える時間、協働的に学ぶ時間等を工夫することにより、生徒自ら学び取る授業づくりを学校全体で進めていく必要がある。
- ・質問調査「数学の授業内容はよく分かる」と肯定的に回答した生徒は 57.6%で全国と比較して 12.8 ポイント低い結果でした。数学科担当や研究推進の取組等で原因を分析し、「分かる授業」への転換を図っていく必要がある。

【理科】

- ・IRT 平均スコアでは、全国や県より低いことから、全体の学力は平均を下回っている。
- ・三朝中生徒間の学力差は小さく、平均値周辺に集中しており、極端に低い学力の生徒も極端に高い学力の生徒も少ない。
- ・加熱を伴う実験で手をやけどしたときに行う応急処置の前答率は 100%である。
- ・二酸化炭素中におけるマグネシウムの燃焼（化学変化）を原子や分子のモデルで表すことができず、前答率は 15.6%で全国と比べて 20 ポイント低かった。
- ・生徒が見通しをもって探究の過程を遂行し、対話によって自分の考えを妥当なものにしたり、広げたり深めたりすることを意図して問題が作成されていることから、理科の学習においても自然の事物・事象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことを通して、自然の事物・現象を科学的に探究する活動をより一層重視する必要がある。
- ・質問調査「理科の授業内容がよく分かる」と肯定的に回答した生徒は 66.7%である。「理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友だちの学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っている」と回答した生徒は 54.5%にとどまり、全国と比べると 13.9 ポイント、県と比べると 16.7 ポイント低い。このことについて、学校で原因を分析し、改善策を検討する必要がある。

3 「みささっ子教育ビジョン」に関する質問調査概要

 は目標値以上

質問項目	目標値	三朝小	三朝中
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	1時間以上 小中とも 90%	52.5 (54.0)	57.6 (61.6)
将来の夢や目標を持っていますか。	小中とも 90%	85.0 (83.1)	48.5 (67.5)
自分にはよいところがあると思いますか。	小 90% 中 85%	92.5 (86.9)	81.9 (86.2)
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	小中とも 100%	100 (97.2)	93.9 (95.9)
朝食を毎日食べていますか。	小 100% 中 95%	92.5 (93.7)	94.0 (91.2)
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	小 100% 中 95%	80.0 (81.9)	87.9 (81)
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	小 100% 中 95%	92.5 (91)	97.0 (92.6)
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	小 60% 中 70%	87.5 (81.3)	84.8 (75.3)
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができていますか。	小 80% 中 85%	82.5 (84.9)	84.9 (84.7)
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	小中とも 100%	97.5 (96.4)	94.0 (96.6)

() は全国